



## 入社半年間の「三大発見」 ～人生を変える三つの原理～

---

ビジネスの世界へ足を踏み入れて早くも半年。

「始めたのついこの前じゃなかった？」の法則は、中学、高校、大学、留学と経験してきましたが、

それでもこの「早さ」には驚かされます。

一方、この半年間、文字通り毎日積み重ねてきた新しい知識、経験、考えや出会いを考えると、

「どれだけ人生に変化が生まれたか」には早さよりもさらに驚かされます。

必要なインプットは無限にある一方、自分ができるアウトプットはまだまだ一握り。

毎日そう痛感しながらも、自分の頭と体で気づいたことを、このブログで言葉にしてきました。

今回は、その半年間のブログの中から、このブログの三大テーマ、「世界」、「人生」、「つながり」について発見したものを、一つずつ書き留めておきます。

噂通りあつという間なのかもしれない人生を、大切に幸せに一日ずつ生きていく。

そのための小さなヒントになればと思います。

---

### ① 「人生編」

\*\*\*\*\*

「好きなことをやる」ではなく、「やっていることを好きになる」生き方

\*\*\*\*\*

(\* ブログ「人生を輝かせる一つの習慣 ～私の幸せGolden Rule～」

5月27日 <http://naos-simplestories.blogspot.jp/2012/05/golden-rule.html>)

「好きなことを仕事にする」

自己啓発本で一番多いコンセプトで、当然これは幸せでしょうが、現実は厳しい。

そもそも、子供の時からそれが正解だと考えてしまうと、ほとんどの人がスポーツ選手かミュージシャンにしかならうとしないし、なれなかったら負けだと考えてしまう。

「自分はR to Rの投資ビジネスでコーポレートサイドから途上国の市場開拓をしたくてたまらない」なんて中学生は存在しません。笑

高校生でもいない。十代でもいないと思う。けれど社会は無数のビジネスで動いている。

そのため、まずは何でもやってみる。そして、必ずやってみる前には想像もしなかったことだらけになるから、それを好きになってみる。

この生き方が人生に変化を生むと思います。

-----

私は「人材開発・育成」を担う、典型的な企画職です。

人材のプロである人事の仕事は、

人材を入れる（採用）、それを育てる（開発・育成）、サポートする（人事）、守る（総務）、適材適所で使う（経営）と、極端に表すだけでも様々な業務に分かれます。

その中で私の仕事は、IT人材を専門家へと導く組織制度を作り、その人材を「見える化」で管

理し、経営戦略に合わせ、「見える化」した人材を適材適所で効果的に使っていく。

それを日本でも世界でも行い「グローバルで勝てる組織」を人という資源から作っています。

当然、変化に合わせて制度を変えたり作り直していくためには、まず既存の制度や組織理論を知り尽くし、まわせるようにならなければなりません。

そのため現在は、人材戦略の核となる評価制度や管理制度を運営しつつ、制度をより強化する様々な施策を企画・遂行したり、最終的なグローバル展開へ各国のマネジメント層と調整しています。

と、こう書くと活躍していそうですが、実際は八つぐらいのプロジェクトに足をつっこみでんてこまいで、かつ「新人ならではのお仕事」もた〜んまり来るし、それでいて期待という名の「教育」も多発します。笑

「うちがうちのやり方でやる」という海外支部も多く、二時間のテレビ会議に議事録係として駆り出されることも、プロの通訳に「一時間英語の議事録を書かせたら、私の給料一週間分の料金が発生します。疲れている時にさらっとやれとか言われると、通訳に転職しようかなとか思ってみたり…。笑

-----

そんな人材開発マンとして、ビジネス世界へ最初の一歩を踏み出しましたが、重要なポイントは、

やってみるまで、こんな毎日を1%も想像すらできなかったこと。

二年以上前の留学中からこのブログに書き続けてきて、入社前夜にも書きましたが、

( \*旅立ち前夜 ~大志貫徹~  
[http://naos-simplestories.blogspot.jp/2012\\_03\\_01\\_archive.html](http://naos-simplestories.blogspot.jp/2012_03_01_archive.html) )

私は「日本を世界へ連れて行く」ことを人生のミッションの一つにしています。

そしてそれを、海外営業や、ITコンサルになって、世界への切り込み隊長として達成しようと

思い描いてきました。

そのため、現在のキャリアは全く意外なものでしたし、そもそもどれだけ「予習」しても見当もつかない道だったと思います。

けれど今は、違っていたから変えたいというより、新しいこと、他と違うことを学べることに感謝しています。

人生新しいことは全て予想外になるのだから、まずは目の前のことから好きになれる点を見つけて、考えて、やってみる。

自分は「見つける」ものではなく「創るもの」だと私は考えています。

いくら居場所を変えようが、不満ばかり吐き出そうが、インドを旅しようが、ある日突然、自分にぴったりで楽しくて大好きで一番になれる道なんて見つかりっこない。

100%満足なんて場所は死ぬまで見つからないと思う。存在しないから。

だからこそ、まずは自分が縁あって今歩いている道を好きになってみる。

これが人生を楽しくしてくれますよ。

-----

## ② 「つながり編」

\*\*\*\*\*

年2回実家に帰っても、両親に会えるのは残り50回ほど

\*\*\*\*\*

(\*ブログ

「10年越しのインサイダー ～おじいちゃんとの信用取引」

7月8日 <http://naos-simplestories.blogspot.jp/2012/07/10.html>

「途中下車 at 昔の話 ～夏の旅・つながりを結びに～」

7月29日 <http://naos-simplestories.blogspot.jp/2012/07/at.html>

「夏の終わり ～一步遠くの舞台へ～」

8月12日 [http://naos-simplestories.blogspot.jp/2012/08/blog-post\\_12.html](http://naos-simplestories.blogspot.jp/2012/08/blog-post_12.html))

**20代**の人が一年に二回帰るだけなら、両親に会えるのは残り**50**回ほど。

兄弟も家を出ればもっと会えないし、ペットには10～20回ほど…。

会える回数も年数もぐっと減るおじいちゃんおばあちゃんもいる。

自分が親になれば、年に二回も帰れなくなるかもしれない。

子どものころは毎日当たり前すぎた家族。

そのせいで育った建物や空間、流れる空気にわざわざ足を止められることはないけれど、

そこにその人がいるのは不思議なほど当たり前なんかじゃない。

だからぜひ、まだその絶対に失いたくない「つながり」があることに気づいて

またつなぎに帰ってほしいと思います。

-----  
出会いとは、全く別の道が今だけ重なって、また別々の道に分かれていくまでのこと。

一見、あなたはたくさんの人たちと同じ場所にいる。

けれど、実は全く異なる人生から、縁あって「今」を一緒にいるだけで、

また一人一人全く別々の道へと戻っていくんだと思う。

人生の重なり方で、その「同じ今」が、三日かも、三年かも、三十年かもしれない。

同級生なのか、チームメイトなのか、同じ寮生なのか、恋人なのか、家族なのかによって。

けれど、人と人が本当につながれている時間ほど、貴重で、はかないものはない と思  
います。

出会いの数だけ別れがあるとは言いますが、もっと重要なのは、

絶対に絶対に失いたくないつながりの全てが、いつかは必ずなくなり、そのお別れがいつきても  
おかしくないこと。

ぜひ改めて、その大切な「つながり」を書き出してみてください。

大切なものから思い出していくと思います。

そして、その中の誰でもいいし、全員でもいいから、この記事を読んだらすぐに電話してみてください。

向こうがその気じゃなかったら、この「つながり編」で紹介したブログをいくつか読ませて下  
さい。笑

「ありがとう」と「好きだよ」が少しでも増えたら、素敵だなと心から思っています。

-----

③ 「世界編」

\*\*\*\*\*

「結果が全て」だとしても、「結果の全てがお金」ではない

\*\*\*\*\*

(\* ブログ抜粋

「お別れの手紙 ～さようなら・留学のパートナー～」

9月6日 [http://naos-simplestories.blogspot.jp/2012\\_09\\_01\\_archive.html](http://naos-simplestories.blogspot.jp/2012_09_01_archive.html)

「TOEIC満点の公式 ～英語から出発、終点のない世界へ～」

8月26日 [http://naos-simplestories.blogspot.jp/2012\\_08\\_01\\_archive.html](http://naos-simplestories.blogspot.jp/2012_08_01_archive.html))

「世界」はこのブログ全てのテーマなので、ここは完全オリジナルで書きます。

-----

「世界を変える」

二年以上私の志を支えてきた情熱ですが、これを聞いて、特に日本人の方はこう思いませんか？



- ・なんで？
- ・熱苦しい
- ・無理
- ・オバマ？
- ・なんかあぶない思想
- ・金にならなきゃ意味がない

アの老えが、アメリカと日本の成功者たちとの決定的な違いの一つではないかと、長い間感じてきました。

アメリカ人は"**Change the World**"が大好きです。

ロスの街を歩いている、「3分で世界を変えませんか？」と街頭アンケートのお願いを受けたことがあります。笑

教会に来ている全ての人が、神の教えを広めることで「世界を変える」、という使命感を持って生きています。

成功した起業家の決まり文句が、自分たちはこの商品、このサービスで「世界を変えた」です。

当然きれいごともありますし、お金持ちになりたいという思いがほとんどの人も多いです。

けれど、成功した彼らの原動力、始まりと終わりのWHYは、「何かで世界を変えたい」という強い思いだと、西海岸スピリットにかぶれた私は五年間実感してきました。

「世界を変える」というテーマは改めてしっかり書かせていただきますが、社会人を半年間経験して確立した思いは、

たとえ99%の人が「自分のお金、資産、名声、快樂、自由」のために生きているとしても、「自分を超えて変化を生む」ために生きる人がいてもいいんじゃないかということ。

どうしても日本人には、チャリティや理想主義、現実を知らないきれいごとを聞かされてしまいうので、学生の私が主張しても「社会を知らない」と笑われるだろうと思い、この時を待っていました。笑

自分一人だけが生きていく、得をするのは簡単です。

ネットの世界を少し知れば、グレーゾーンでもブラックでも、誰かのお金を得る方法は、法にひっかからなくてもできる。

一方、お金にならないのに、知識や知恵、自分ができる貢献を広めることに意味を感じない人がほとんどで、お金になるほどの価値を生めるならお金に変えなきゃ馬鹿だ、甘い、と思う人もたくさんいる。

けれど、自分以外の人のことを日常的に考える人がいてもいいと思う。

いなきゃダメだと思う。というのが三つ目の発見。

-----

1人で1の価値を生んで1のお金をもらえば、1人で生きていける。

1人じゃ生めない10万の価値を10万人の会社で生んで、1のお金をもらうのがサラリーマン。

10万の価値を10万人が1ずつ生んでいるわけではないから、年齢や能力によってその人のお金の数字は異なる。そこで、自分は10もらうべき、100もらうべき、年齢が高いだけであいつは0.5しか生んでないのに不公平、とお金のシステムで納得できないから、転職や起業する人もいる。

私は別に、貧乏だけど大事なものはお金じゃない、とか言ってるんじゃない。笑

最近流行りの、会社勤めは負け、一人で金を稼ぐのが勝ち、という流れに意見を言う気もないし、必要ならば自分の頭と身体、世界中の仲間を使って、自分の船を造れるとも思っている。

そのため、私にとって大事な指針が、自分がどんな「価値」を生み出せるのかということであり、その視点を持つ「仲間」が増えてくれたらなと思います。

価値<お金の数字=「成功」と考えたり、価値>お金の数字、を嘆くのもわかりますが、お金の数字より価値の数字を上げるために生きていきたい。

-----

結論として、それが今すぐはお金という数字で返ってこなくても、

- ・ IT企業のグローバル人事
- ・ 革語
- ・ ブログ
- ・ 甲
- ・ 幹事
- ・ 長甲
- ・ 国際人
- ・ 受験や大学、留学や就活を乗り越えてきた先輩
- ・ 生意気だけど自分と違う知識を持っている後輩
- ・ 知る人は知るいろんなマニア（笑）

という様々なアイデンティティを通して、自分が生める変化を増やしていくことが何よりの生きがいです。

パスポートも持っていない友達が、私が英語で違う国の人と話すのに感動し、目に見えて人生を変えていく。

毎週幹事として、普段は出会えないみんなの笑顔を集める。

ほんの少しでも、俺も頑張る。なんか心がほっこりした。と思ってもらえる記事を書く。

「週末行くよ」と電話するだけで、一週間毎日楽しみに待っててくれるおばあちゃんがいる。

そんな、「自分が生める変化」のために頑張る生き方が、間違っただけではなかったと思えたのが、半年間頑張ってきて気づいた大切な発見でした。

\*\*\*\*\*

最後に、...ごめんなさいいつも長くて。シンプルさも有言実行するよう頑張ります。笑

①縁あって今歩いている道を好きになってみる。

②大切なつながりを書き出して、「今度会いに行く」と電話してみる。

③自分が周りに生み出せるものは何かな、と考える。

この三つの変化をあなた自身もぜひ実践してみてください。

今年の後半戦も、一緒に一歩ずつ、前だと信じる方向に進んでいけたらと思います。

2012年9月22日